

白方地区 村政懇談会（I部）

日 時：平成30年8月4日（土） 午前9時30分から10時50分まで
場 所：白方コミュニティセンター 多目的ホール

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，企画総務部長，村民生活部長，福祉部長，産業部長，建設部長，教育部長，議会事務局長，福祉総務課長，高齢福祉課長） 計12名

事務局（課長，課長補佐，係長，地域づくり推進課職員3名） 計6名

自治会長（白方区，豊岡区，岡区，百塚区，亀下区，原子力機構百塚，豊白区，村松北区） 計8名

ワークショップ参加者：白方区5名，豊岡区4名，岡区4名，百塚区5名，亀下区5名，原子力機構百塚区3名，豊白区5名，村松北区5名 計36名

一般参加者：白方区15名，豊岡区2名，岡区1名，百塚区2名，亀下区3名，原子力機構百塚区0名，豊白区0名，村松北区4名，その他14名 計41名

司会進行：百塚区 佐々木浩

総計103名

《次第》

開会

1. 趣旨説明（橋本地区自治会長）
2. 2つのテーマについてワークショップ
 - （1）元気な高齢化社会の実現
 - （2）地域活動協力者の仲間づくり
3. ワークショップで出た意見の発表
4. 村からの意見，感想等
5. 自治会長から意見，感想等

閉会

《記録》

【趣旨説明（橋本地区自治会長）】

今回の村政懇談会は広報とうかいや地区の回覧板でも案内したとおり，2部構成で実施する。去年までは一問一答の意見交換中心に実施してきたが，今回については地域づくり推進課と地区自治会で話し合いを行い，このような形とした。本日は村長はじめ村執行部，職員の臨席を賜り，大変ありがたい。I部で話し合うテーマは「元気な高齢化社会の実現」と「地域活動協力者の仲間づくり」の2つである。壮大なテーマだと思うので，話し合いの内容を少しかみ砕いて説明したい。

1つ目の「元気な高齢化社会の実現」については，元気な高齢化社会の実現に向け

白方地区 村政懇談会（Ⅰ部）

てどのようなことができるか等を話し合っていたきたい。具体的には、例えば、高齢者を1人にしない、させないような対策を、行政側の観点、自治会側の観点、福祉の観点、地域と連携した際の観点などから話し合いができれば良いと思う。地元の高齢者の支え合いの中で色々な意味での環境が良い方向に行くような対策を話し合えば良い。また、高齢者のひきこもりは寂しいので、できるだけ少なくしたいという意味も込めてこのようなテーマとした。

2つ目の「地域活動協力者の仲間づくり」は地域の人材の育成についてなど、皆さんに各自治会で活動する時に積極的に集めてもらえるような対策を考えたい。今の地域の実情を把握したうえで、次の担い手を探していただきたいと考えている。また、それと同時に、現在私たちが活動している内容が多かったり、重たい場合などの対策についても考えていただきたい。このほか、役員の輪番制、あて職などについても意見交換の中でアイデアが出てくれれば良いと思う。

話し合いの前には進行係と発表者を各テーブルで決めていただき、発表者については出てきた意見を行政側、地区自治会側、単位自治会側のそれぞれの視点から、発表していただければと思う。結論は求めないが、活発な意見交換をお願いしたい。

なおⅠ部が終了した後は、2階に移動し、Ⅱ部を開催する。Ⅱ部では村長からの挨拶、村執行部からの事業紹介の後に一般の質疑応答を行う予定である。限られた時間だが、よろしくをお願いしたい。

【ワークショップで出た意見の発表】

元気な高齢化社会の実現

1班 豊白区：井坂 昇さん

元気な高齢化社会の実現について議論したが、高齢者の目標は基本的には健康で長生きすることである。白方区や亀下区では週に2～3回程度、グランドゴルフやクロッケーを行っていて、そこに参加している方々は皆元気だという。百塚区ではラジオ体操愛好会というものがあり、高齢者クラブの活動として週に1回50分程度実施している。「支援を必要とする人をどうするか」ということと、「ひとりにしない・させない」ということで地区社協が主体となり、ふれあい食事会を実施しているが、歩いて来れない人が参加できないということが問題となっている。また、高齢者がゴミ捨てに行けないことも問題となっており、グループを作ってはどうかという意見が出た。

食事療法については、健康のバロメータを確認する意味でも、年に1～2回程度、病院で血液検査や尿検査を行うことを義務化することで、高齢者の健康維持の指導ができるかと思う。

その他の意見として、高齢者の働く場を村で作ってもらいたい。シルバー人材センターばかりではなく、ボランティア等をポイント制度にすれば、それを支援する人も集まるのではないだろうか。まとまらなかったが、1班の発表を終わりにする。

白方地区 村政懇談会（I部）

2班 百塚区：藤木 和男さん

記録した中から重要だと思うものを列挙する。ひきこもりの防止という点では、とにかく人に会い、友達ができることが大事で、無理にでもそういった機会をつくる必要がある。また、自治会による認知症の講習会に参加して感じたことは、本人が認知症と分からない状態を他人が気付くためには自治会内のコミュニケーションを促進することが大事だということである。集会所で麻雀やカラオケをやることが有効だという意見が複数あった。集会所が遊び場として使用できるということを自治会員以外の方にも広めることも良いだろう。地域活動、対人関係のきっかけづくりをどのようにするかが重要になるが、それに関連して、ひきこもりになりがちや、認知症の症状が出てしまってからその人に働きかけても難しい点がある。そういった心配のない若年のうちから社会として啓蒙することが必要だ。これは自治会の活動ではなく、行政や企業の活動にも繋がっていくが、若年のうちから何ができるかの活動を啓蒙していくことに取り組むことが大事だという意見が出た。

3班 村松北：鈴木 英昭さん

元気な高齢化社会の実現がテーマであったが、それには地域の活性化が大事だ。地域での取組が重要で、例えば皆で集まって核になる行事があれば良い。また、自ら壁を作ってしまう、活動に出てこない人に対しては、ソフトに誘いかけるのではなく、誰がやるかは別として、リーダー的な人が強く声掛けをすることも必要だ。今は役員を順番にやっているが、高齢であるために体力的にできない方もいる。また、パソコンが使えないので役員を辞退せざるえない方もいる。そういった方をどうするかも考える必要がある。他には男女の性別の違いがあり、女性の高齢者はいろいろな活動に積極的に参加して非常に元気だが、男性は消極的である。女性を見習わないといけないうららうといった意見も出た。

地域の核となる行事と関連するが、どこの地域にも高齢者クラブや防犯パトロール等があるので、そういったことを一緒にやらしてもらえように引っ張り込むように誘うことも大切だ。そこで顔馴染みになることにより、他の活動にも出てくるようになるのではないかということだ。最近では70歳位でも働いている方が多い。働きながら地域の活動となるとなかなか難しいのだが、できる範囲でやらしてもらおうような方策が何かあれば良いといった意見が出た。

地域活動協力者の仲間づくり

4班 村松北区：藤咲 修一さん

地域活動協力者の仲間づくりということで議論をした。20数項目の皆さんからの

白方地区 村政懇談会（I部）

意見をまとめたものを報告する。地域活動というのを、自治会活動の協力者と捉えて考えた。自治会活動への協力をどうするかをまとめた。まず、自治会活動あるいは自治会役員になる人はどうなのか。どこの常会も大変だといった意見が出た。最初に出るのが「大変だ」ということだ。裏を返せば行事が多いのだろう。また、自治会活動は完璧を求められる。新しくやる方も完璧を求められて、目に見えないプレッシャーを感じていてやりづらいということだ。現実的な問題としては自治会活動にはパソコンが必須であり、東海村では自治会に関与している方におけるパソコンが使える方と使えない方の年齢層が過渡期でチェンジする時期である。先輩の方でパソコンが使えない方がいると、お願いされることがある。そういったことも「大変さ」に入るのだろうと考える。また、自治会や祭り等のイベント関係でお金や景品等の魅力を見せて若い人たちが参加しやすくし、そこから地域の輪を広げることのひとつの手段だと思う。最後に班長経験者で自治会への関与に興味がある方をピックアップし、その方をアドバイザーのような立場として迎え、次の自治会活動において中心的な役割を担ってもらえるようにすれば、最終的には自治会の存続及び若返りを含めた活性化ができるのではないかということであった。

5班 岡区：川野 好勝さん

皆さんからの意見をご紹介します。テーマである「地域活動協力者の仲間づくり」とは、今の時代では前向きに取り組むことが難しいテーマである。どのように人を集め、その中で役割等を皆でやっていくのは現実的にも、将来に向けても難しい問題である。7月31日付の茨城新聞に真崎古墳群を活用し、活性化したという記事が掲載された。それを紹介してもらいながら話し合ったのだが、ここでは、子どもを参加させ、地域も一緒に行事に参加している。これは非常に大事である。地区によっては子ども会がある地域とない地域があるが、子どもを含めて人を集めることで、その中でいろいろなコミュニケーションが図れ、性格や人となり分かる。こういったコミュニケーションを図る場が必要だ。また、運動会等の人が集まりやすいイベントも重要だ。しかし、年々運動会の種目を簡素化し、抽選等を工夫しているが、若い人の参加減少に歯止めが効かない状況となっている。村外ではフリーマーケット等を定期的で開催して人を集めている。その中で人が集まればコミュニケーションが図れる。人と知り合うきっかけとして有効な手段だと思う。例えば白方コミセンで祭りがあるが、それ以外で用事があれば人が集まり、新しいものが出てくるのではないかといった意見があった。また、夏休みのエンジョイサマースクールの一環としてラジオ体操を実施している地区もある。これを自治会とタイアップすることもひとつの方法だろう。結論として、人を集める場を作り、次世代への人材発掘に繋げていくことが大事だ。

白方地区 村政懇談会（I部）

6班 白方区：関田 芳巳さん

地域活動協力者の仲間づくりというテーマであったが、全体的な仲間づくりという
ことで話し合った。どこの自治会でもそれぞれの行事には原形ができていて活動して
いるが、いかに大勢の方に集まってもらうかが課題となっている。地域によって戸数
も様々だが、組織を広めて仲間づくりをするということで、子ども会を利用すれば、
仲間が増やせるのではないだろうかといった貴重な意見が出た。女性が役員をやっ
ているが、男性3～4名がサポートをして行事を行っている。上手くバックアップして
いると感じた。各自治会は数十年伝統ある行事をやっているが、役員になって活動す
る人がいない。できる人はたくさんいるはずだが、それぞれ事情がありやらないのだ
と思う。色々な行事を班長等と協力して楽しくやるためには遊び心が必要だと思う。
例えば白方地区のグラウンドゴルフ大会では、約250人が集まるが、以前まで役員
は昼食を食べる暇もなく、交代で審判をするなどしていた。昨年度からは昼食の時間
はしっかり取る等の工夫をしている。そのような工夫が必要であると思う。

【村からの意見，感想等】

村長：グループでのディスカッションお疲れさま。初めての取組で、スムーズにい
かなかった部分も多々あるが、非常に有意義な取組であった。こういったことが普通に
できるようになれば良いと思っている。それぞれの地域でも「会議がつまらない」、「会
議に出ることが負担」だと思わないで、そこに出ることによって、自分の意見が言
えて「少し良いことが決まった」と思えるように、会議の仕方を変えてみるのもき
っかけ作りとしては非常に良い取組だと思う。「元気な高齢化社会の実現」のテー
マについては、皆さんの意見にも出ているが、健康で生きがいを持っていることが第
一だ。これは一人ひとりの努力ではダメで、仲間がいないと人は幸せにはなれな
い。今後、高齢化が進んでいくと高齢者夫婦だけの世帯が増え、そのうち1人にな
ってしまう。地域との接点が薄れてしまうので、若いうちから仲間を作っていかな
いと年老いてから急に仲間を作ることは難しいだろう。自分が積極的に出るこ
とも必要だが、周りからの問いかけも必要になってくる。そういう意味で地域
での支えは欠かせないと思っている。一方ではそれぞれの住民の方が安心して暮
らせる環境を作ることは村の役割なので、法律に基づくもの等については村が
支えていく。官・民それぞれの役割があるので、各地域で困ったことがあれば
役場に伝えていただきたい。それぞれの地域でやり方があり、これといったひ
な型はないと思う。今後もそれぞれの地域で話し合いを重ねていくことで少
しでも解決に導いて行ければ良い。

もうひとつのテーマの「地域活動協力者の仲間づくり」では、自治会の活動は本
当に良くやられていると思う。夏祭り等が継続して行われているのは歴代の方
々が支えてきたが、やめられずに維持してきたものなので、プレッシャーはあ
ると思う。これからの時代に多くの方に賛同してもらうためには、行事等の
振り返りが大事になる。

白方地区 村政懇談会（I部）

反省会ではいろいろな意見が出るが、来年も同じことをやることについては、改める必要がある。しっかりと振り返った上で、来年に向けて一気に変えるのではなく、少しずつ変えていくように意見を言える雰囲気を作ることが大切だ。今の役員の方々が非常にご苦労されているのは分かっているが、今と同じことをやってもらおうとすると苦労する。次の世代に苦労させないために、自分たちで少しずつ変えていき、若い人たちが入りやすい環境作りをしていくことを心掛けてほしい。私もいくつかの自治会に入らせてもらって、こういったことを丁寧に行おうとしている。多くの自治会でこのような話し合いをしてもらい、これからどうしたら良いかを皆で一緒に考えていくことを続けてもらえれば、必ず各地域の活性化は成し遂げられると思うし、当然良い所が出てくると思う。引き続きご協力をお願いしたい。

副村長：グループディスカッションお疲れさま。皆さんの発表を有意義に聞かせていただいた。今回のテーマである「元気な高齢者社会の実現」と「地域活動協力者の仲間づくり」の2つのテーマであったが、このテーマは村にとっても大きな課題だと捉えている。このテーマについて、議論していただいたが、全く別々の課題ではないのだろうと思って発表を聞かせていただいた。「地域のつながりの大切さ」、「地域のコミュニティを形成することの大切さ」が大きなポイントとなると考えている。その地域のつながりやコミュニティを作ることが今後の高齢化社会に向けて、皆で助け合っていける地域になり、若者も入ってこれるような地域社会になるのではないだろうか。人口構成上、65歳以上の占める割合が高くなってきている。国の施策もそうだが、高齢者向けの施策が中心になってきている。有権者数の占める割合も高齢者が高くなっている。そうなるのはやむを得ないことだが、そういった中で若い世代の人たちが一念発起して我々の施策に頑張ってもらえるのか、それとも関心が向かなくて弱い力になってしまうのかは難しいところだとは思いますが、高齢者施策が中心になっていく中で、やはり若者が希望を持てるような施策を取り入れていくことが非常に大切だと思って聞いていた。地域の中で若い人たちを入れていこうという時に自分の若い時を想像して考えてみると私は役場の職員だったので、地域のことをやることは苦ではなかったが、民間企業で働いている方にとっては仕事優先になってしまうので、なかなか地域には目がいかないと思って聞いていた。そういった方々を地域に入れていくのは非常に難しいと思うが、若い人たちを地域の中に取り込んでいくためには何か仕掛けが必要だと思うが、これだといった答えはなかなか出ない。地域それぞれに手法は様々だと思う。今回初めて白方地区でこのような議論を行ったが、真正面から課題に向かって皆で議論することの大切さは非常に良いことだと思った。

【自治会長から意見、感想等】

橋本地区自治会長：皆様からの活発な発言ありがたい。村長、副村長には感想を述べ

白方地区 村政懇談会（Ⅰ部）

ていただき、一部の幹部の方には各テーブルに入っていた。協力に感謝する。いろいろなテーマが出て、これから内容を精査していくことになる。今後は地域づくり推進課とやり取りをしながら、課題解決に向けてできるものから進めていきたい。これからもよろしく願います。

以上